

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設4年を迎え、近隣の方々との交流は以前にも増して密になっている。散歩などで馴染みの関係も出来、見守りをしてくださったり、行事にお誘いしたりしている。地域で生かされていることに感謝している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	分かりやすい理念を掲げ、職員会等色々な機会をとらえて職員への理解を得よう努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	先ず実践が大切と考え、より多い外出に勤めている。場所的にも便利であるので面会者は多い。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	絵画を貸して下さったり、野菜を頂いたり、見守りをしてくださったりと感謝の毎日である。ほうばずし作りや餅つきに招いたりして交流を深めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事には積極的に参加するように努めている。祭りにはお参りに全員で行くし、お神酒を上げたりして、付き合いをしている。避難訓練にも参加し、理解が一層深まったと思う。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の相談を受けたり、愚痴を聞いたりして、なるべく平易な言葉で話すよう努めている。講演の依頼があれば受ける。介護保険のことも出来る限り相談に乗っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のそれと無い取り組みが自己評価・外部評価の結果に反映すると思い、意見や考え方が一方的にならないよう取り組んでいる。職員会ではだれからも発言するよう仕向けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加が今ひとつではあるが、GH・行政、地域のコミュニケーションには役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からも必ず来てもらえ、協力的・好意的であるので有難い。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	この点は地域でも理解されていないほうが多いと思う。利用者に該当する方があり、管理者の姪が司法書士をしていることもあり、相談に乗ることもある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は当ホームでは無い。パンフレットなどで理解を深め、はなしあいをする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように実行している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お茶の時間や談笑の時をとらえ、ざっくばらんに聞くようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問のある時はその都度話し、又、領収書に同封して近況報告をしている。写真の多い便りを送付し喜ばれている。出納帳は見えていたり、コピーを送ったりして理解を得ている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名のアンケートをするのもひとつの方法と考えている。苦情・要望承り箱を設置しているが投書は無い。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会では忌憚の無い発言を促し、申し送りノートにも思ったことを書いてもらっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は仕事の内容・状況をよく理解しているので、トラブルことは無い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・退職は無いので利用者へのダメージは無いと思う。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の報告を話題にしたり、新聞記事をテーマにしたり、研修案内や、参考図書の紹介をしたりして、福祉の流れや現状を知らせている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の同業者とは腹藏なく話せる間柄になっている。遠方の同業者も旧知の間柄でよい関係を保っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は誕生プレゼントを贈ったり、管理者は親睦会に出席し、話す機会を得るように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの個性を認め、良いことは十分評価する。話しをきいたり、アドバイスをしたりして、向上心に訴える。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当のケアマネ、親族、隣人、本人を取り巻く全ての人から情報を得、なるべく早く信頼感を築くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	地域からの入居者が多いので、親近感があり、安心感を持ってもらえる。馴染みの間柄が多い有難さである。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向や希望を大切にしホームでできる情報があれば、なんでも提供する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	多少入所が遅れても運営者に話し、理解を得、納得されるまで待つこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意見に耳を傾け、傾聴の態度をとる。聞くことで安心感と理解を得ることができる。		

岐阜県 グループホームうらら金山

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を取り巻く人は全てスタッフという考えで取り組む。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との良い関係が築かれており、それが第一歩で、他の人間関係とも良い関係を築く。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くや自宅に送っていくこともあり、入所によって孤独になったり、人間関係が疎遠にならないよう、遊びに来ていただくよう呼びかけをする。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ともすれば、職員が中心になりがちなので、黒子、というか触媒というか主役にならないように気をつける。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中の方に折り鶴を折っててプレゼントし、寄せ書きを届けたりしていたら、亡くなった時それらを全部棺に入れましたと、遺族から涙声で感謝の言葉があった。葬儀には全員でお参りした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折りに触れ本人の気持ちを理解するように努めている。むかし懐かしい食べ物や思い出話から少しでも本人の気持ちに沿いたいと努める。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人は誰でも誰かに聞いて欲しい話があるようで、時間が許す限り、傾聴し共感するように努める。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本的には、散歩・口腔ケア等健康にとって大切なことは欠かさないようにし、あとは本人の思いを優先させる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャの介護計画にもとずき、本人の意向・希望を取り入れ、職員の意見・家族の希望等を取り入れ広範囲な面から計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度、家族はもちろん本人を取り巻く関係者と密に連絡を取り合い対処している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアマネがキーパーソンになり、一元的に理解取り組みができるよう、職員会での情報交換、申し送り、生活記録表のチェックなど細部にわたり見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・買い物・ドライブ等の生活支援・外出支援をし、また、24時間の医療連携体制で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	普段の付き合いも含め、機会あるごとにホームの現状を理解していただき、必要に応じ、気楽に関係機関の応援を得、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域における連絡体制が良好に保たれ、お互いに親しい間柄なので、他のサービスを利用するための支援は可能である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護保険室とも合わせ市も協力的であるので、情報・知識・法律的なことも含め協働できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医院及び提携医療機関への受診を支援し、要請すれば、随時往診してもらえる体制をとっている。又、提携している看護師とも連絡体制等が良好な関係にある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	遠方でも今まで受診した医療機関、紹介された医療機関、良いという定評のある医療機関を紹介している。市内では認知症の専門医が少ないため、主治医に紹介をお願いしてもらうなどの支援をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	契約の看護師が訪問してくれ、介護・生活記録に目を通し状況把握しており、気楽に話せる性格なので、利用者の信頼が厚い。健康管理・医療の面で支援は出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の主治医とかかりつけ医師との協力・連携が取れているので、医療面での支援は出来ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族と連携を密にしながら、出来るかぎりのところまで対応している。看取りとなるとそれなりの器械・人員確保等で現在のホームでの看取りは、難しいと思われる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム・医師・家族の連携を密にする。終末期の見極めは医師にゆだねる。今回死亡者が一人出たが、パニックにはならなかったし、入居者にもショックは無いと観た。現在の入居者は家族が近辺に住んでいるので、ホーム自体の負担はさほど無いものとする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間で十分な情報・意見交換をし、本人家族にとってより良い方向に持っていくように努める。グループホームでの支援・介護体制の限界を関係者が把握しておく必要がある。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	浴室は暖簾で遮蔽し、男子職員の介助がいやな入居者にはそのような人的配慮をしている。トイレ介助は必ず、ドアを閉める。いずれも介護全般にわたることであるが、指示的・命令口調の言葉掛けはしないよう心掛けている。記録など個々にかかわる書類は事務所で保管し、又、現場にあっても目に付かないように配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉遣い・接する態度等々受容するよう心掛け納得していただけるように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体生活では、ある程度規則的な生活にならざるを得ない。その中であって起床時間・食事のペース等本人のペースに合わせ、散歩のコース・買い物先もなるべく希望に添うようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いかにも老人風な服装や身形にならないよう配慮する。理美容は在宅時の馴染みの店に連れて行く。最近は職員に理容師がいるので、話し合いながら、気に入ったカットにするようにしている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく入居者にかかわってもらおう。食事は同じテーブルで職員も食べ、要介助者にはそれなりの配慮をする。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	懐かしいメニュー・郷土食・希望のメニューを採用している。刻み食の必要な入居者にはそのようにし、魚の骨を外したりしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録で、生活パターン・リズムを把握し、チェックをいれて支援している。医療機関で摘便・浣腸を受けたり、ホームで看護師によることもある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに入浴できるよう支援している。バイタルチェックも参考にし、翌日に伸ばすこともある。男性職員の介助がいやな入居者にはそのように配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	最近は8時半には全員休まれる。安定剤や眠剤投与の方もある。電気毛布のセット・エアコンで室温管理などして、快適睡眠できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活-洗濯物たたみ・掃除など自発的にかかわってもらっている。漬物つけ・お茶摘・山菜取り・竹の子掘り等を生活に取り入れている。手芸・絵手紙・パズルなどをとりいれ、季節感のある行事等にもかかわってもらおう。		

岐阜県 グループホームうら金山

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金もあるが、外出の時、自己管理できる人には、1, 0 0 0円なり2, 0 0 0円ほどは手渡す。使途については家族に説明し、了解をとっておく。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人の外出は、無理に思える。健康維持のため毎日散歩を取り入れている。観音様に参ったり、朝取り市場をのぞいたり、花や草木を見ながら話が弾むことが多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜・もみじ・芝桜・彼岸花・コスモス・ヒメツルソバ等を見に出かける。見頃を教えてくださいかたもある。蛍狩・もみじ狩・地域の祭り・文化祭等々外出の機会を作り支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。手紙もかくのをお手伝いをしたり、代筆することもある。本人にとってはなによりのたのしみでなので、丁寧な支援を心掛ける。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	バス停に近かったり国道からのアクセスも良いので面会者は多い。入居者が、地域の方なので馴染みの人が多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は無い。専門のマニュアルを回覧し、徹底を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣で空き巣被害があり、又、入居者の無断外出もありでやむを得ずロックしている。一日1回は散歩に出かけ、希望があるときは、付き添って、外出している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その日の勤務体制で、ポジションを確認し、互いに声を掛けながら安全確認をしている。夜勤者は全体が見渡せる椅子に腰掛け、少しの物音にも対処できるように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・消毒薬などは極力、利用者の目に付かないところに保管し、刃物の置き場所も気をつけている。中毒症防止のため、防虫剤・乾燥剤等は目につかないところに保管する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	声かけ、見守りで、注意を喚起する。誤薬に関しては、本人に手渡す前に、名前を呼び上げ、日付、朝・昼・夕の区別を声に出して確認する。人によっては、口に入れ、飲み込まれたか迄確認している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	非常時の連絡体制は出来ている。応急手当や初期対応の訓練は充分ではない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、うち1回は消防署の指導を受けている。町内の防災時協力体制も得られるようにしており、実際の避難訓練も町内・地域の方と行動を共にした。そのことにより顔と名前を覚えてもらうことができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	暴力的な人、転倒の恐れがある人、又、老人は急変がありうることを、転倒しやすいことなどを家族には伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタルチェックを実施し、特に入浴前の結果には注意を払う。週1回の体重測定も実施している。異状があったり、様子のおかしい時は情報を伝え、時には看護師、主治医に連絡し相談することもある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤はケアマネが一括管理しており、情報は確実に伝え、職員に説明・申し送りしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ケア真似が管理栄養士なので野菜等の多い献立で配慮している。水分摂取を十分にし、運動して体を動かすことに気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	8020を意識し、毎食後の歯磨きは、徹底している。夜間は、義歯を預かり消毒等の管理を徹底している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアマネが管理栄養士なので、バランスの良い献立を立てている。水分摂取にも充分配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	公的機関からの情報は、職員に公開し、徹底を図る。インフルエンザの予防接種は、利用者・職員全員が受けた。外出からの帰り、食前・おやつ時の手洗い消毒を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事の残り物は次の食事に出さない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節感を大切にし、花の植栽をしたり、玄関には季節に合った飾り物を配置している。来客者にも安らぎを感じていただける工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ前のソファや、掘りごたつのある和室はゆっくり過ごせる空間である。テレビはもう1台和室に配した。ウッドデッキも人気があり日光浴や語らい、風のささやきを感じられる大切な場所である。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	炬燵に人気がある。手芸・洗濯物たたみ・トランプ・カルタ・世間話・昔話の語らい等和気藹々で過ごされている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時には、馴染みの家具や仏壇・位牌・神棚等持ち込んでも良いですと説明している。家族の写真・鉢植え・装飾品も配置し、それなりに工夫され、居心地良く過ごされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間の換気設備がある。各居室にも換気設備が備えられている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの高さ・太さにも配慮した。老人にあった照明・バリアフリーで、トイレ・浴室もそれなりの配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	手作りの名札(布製)着用を徹底する。常に見守り、寄り添う、過度な介入はしない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキがあり、日光浴、干し柿作り、洗濯物干し、又、近所の通行者との会話が弾む。時にはお茶の時間にも利用する		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 運動・栄養・休息を一体化して採り入れている。散歩は毎日、食事はハイカラなものでも食べて下さる。休息は充分睡眠をとっていただく。
 ○口腔衛生に力を入れ、食後の歯みがき、うがい等は確実に実施し、誤嚥性肺炎にかからない様留意している。
 ○地域の方との交流を大切にしている。